

主題聖句：ヨブ 37:21 「今、人々に光は見えないが光は大空に輝いている。風が吹き渡り、大空を掃き清める」(『聖書協会共同訳』)

<序>

1月5日に足を踏み入れた輪島市の闇は不気味でした。北陸自動車道「金沢森本 I.C」からおよそ2時間。行き交う車が徐々に減っていきます。北へ向かう車両はなく、神戸国際支縁機構のハイエースは里山海道・能越自動車道・珠洲道路経由へ続くはずの国道249号線は第1次で報告しましたように、古賀市から北へ進んだ輪島市直前の山の崩落のため、海岸沿いに入れませんでした。

そのため富山湾背景に北アルプス・立山連峰が見える半島の右を経由しました。富山県で育った中原朱音さん(佐々木美和事務局長の親友)から能登の被害の様子を予め神戸で確認していました。彼女によると、日本基督教団輪島教会が全壊という情報でした。輪島教会の様子を見に行きますと、飼っている猫が気になって避難所から戻っておられた新藤豪^{つよし}牧師と会うことができました。

30年を振り返って、阪神・淡路大震災、東日本大震災、球磨川水害など各地に漕ぎ出しました¹。福島第一原発事故のメルトダウン、市房ダム(球磨川水害)、成羽川ダム(岡山県倉敷市真備水害)、や厚真ダム(北海道厚真町・安平町・むかわ町)被害、コンクリート河川の決壊など人災を見続けてきました。しかし、日本列島を逆さにすると最も大陸に近い能登半島の最北端で見た光景は暗黒でした。かつて大伴家持が万葉集で歌った風光明媚な地、^{おおとものやかもち}「鳥総立て 船木伐るといふ 能登の島山 今日見れば 木立茂しも 幾代神びぞ」の「幾代神びぞ」が佇むほど神聖不可侵な地が揺り動きました。太古からの自然の営みだから諦観、あきらめるしかないのでしょうか。

暗闇、元日に起きた災いで石川県だけで206人のいのちが潰えました。災害関連死は8人、安否不明者は52名でした²。圧死だけではなく、凍死も30人以上に及んでいます。寒空の下、救援にだれもやって来なかったのです。見棄てられた無常さの象徴が須須神社[猿女豊信禰宜]の灯籠の倒壊です。

能登では最も盛んなキリコ祭高さ15メートルほどの「キリコ」をひいて歩く「寺家キリコ」の祭があります。祭りは疫病を鎮めるため1665(寛文5)年に始まったとされ、荒々しさを好む祭神をもてなし、漁師町の平穏を祈る祭典です³。「里海里山」に照らし出される幻想的な江戸時代から続く光は日本の創世記を思わせます。「テテンコテンテン、テコテンテン」という一定のリズムを刻みながら練り歩くキリコをかつぐために、都会に出ていた若者は正月、盆とは別に里帰りをします。揺れる灯りは歓楽境でもないのにとっても幻想的です。コロナ禍に対する神への信頼の欠如がもたらしたのでしょうか。奥能登の風光をどのように回復するかと一緒に考えましょう。

¹ 神戸国際支縁機構のロゴは押送船(おしよくりぶね)。ボランティアは必要とされる地に漕ぎ出すことに由来する。

² 『北國新聞』(2024年1月10日付)。

³ // (2023年7月8日付)。

目次

- (1) 1.1 大震災以来はじめての食事
 - a. 炊き出しを通して知る住民の実態 3
 - b. 傾聴ボランティア 4
 - c. マニュアルでは被災地は救われない 5
- (2) 津波に負けぬ
 - a. 津波にさらわれた限界集落の家々のがれき 5
 - b. 塩は生活の必需品 7
 - c. 海女、「はよ潜りたい」 家失っても「漁続ける」 8
- (3) 里山・田園・里海の復興
 - a. 棚田の亀裂 9
 - b. 海の見えない能登にするな
 - コンクリートの防波堤、防潮堤、テトラポットに頼らない「湾」 (季刊誌『支縁』No.10) 10
 - c. 奥能登の風光 11



足湯を提供する神戸大の学生ボランティア(右)、被災した住民に選ばれた=1月、石川県七尾市(いずれも撮影:空真次郎)

災害発生後のボランティア 兵庫県の記事によると、阪神・淡路大震災の発生から1カ月間で活動したのは約62万人。1年では約137万人だった。東日本大震災では、災害ボランティアセンターを通じて活動した(岩手、宮城、福島県)のは発生50日で約23万人。およそ1年で約102万人。いずれも延べ数。

阪神・淡路では62万人殺到したけど...

SNSの批判懸念 ■ 続く自粛ムード



被災地の民家で、片付けを手伝うボランティア。現地の手は足りていない=1月、石川県輪島市横地町(高田幸心)

ボランティアの自粛ムードは、東日本大震災(01年)や熊本地震(16年)でも見られた。議論の源流は阪神・淡路大震災だ。当時金沢から駆けつけたボランティアの活動を支える「震災ボランティア」の活動が「震災」と「自由」の両面が描かれていた。

ボランティアの自粛ムードは、東日本大震災(01年)や熊本地震(16年)でも見られた。議論の源流は阪神・淡路大震災だ。当時金沢から駆けつけたボランティアの活動を支える「震災ボランティア」の活動が「震災」と「自由」の両面が描かれていた。

「市民が自発的に動く文化がなくならないように。あの時のボランティアたちを思い出して、(高田幸心)

能登地震 1カ月半で2739人止まり

ボランティア文化に陰り

能登半島で、災害ボランティアのあり方が問われている。震災1カ月が過ぎても、災害ボランティアセンター(ボラセン)を通じて活動しているのは延べ2739人。阪神・淡路大震災では1年1カ月で延べ62万人だった。「ボランティア元年」から10年。同じ住民社会の被災地でも、活動のペースも異なる。

「ボランティア元年」から10年。同じ住民社会の被災地でも、活動のペースも異なる。

「ボランティア元年」から10年。同じ住民社会の被災地でも、活動のペースも異なる。

2024年(令和6年) 2月19日 月曜日

神戸新聞社

〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7

電話 (078) 362-6000

報道部 7040 文化部 7044

経理部 7054 販売部 7066

運動部 7055 営業部 7086

総務部 7047 印刷部 7081

編集本部長 吉岡 公孝

〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7

月金10-17時(土日祝祭日)

購読・配達お問い合わせ 0120-16-8349 10-17時

総合	2
国際総合	3
経済	4
オピニオン・発言	8
日・ラジオ	9
からだ	10
くらし	11
スポーツ	12-13
習字	14
読者文芸	16
わがまち/暮り場	18-19-20-21

社説 8面

核のごみ調査

(1) 1.1 大震災以来はじめての食事

a. 炊き出しを通して知る住民の実態

神戸国際支縁機構は食材購入、調理器具、プロパンガスなどすべてを積み込みます。丹波水害(2014年8月15日-18日)、熊本・大分地震による愛児園(2016年4月14日,16日)、岡山県倉敷市真備町^{まびやた}箭田の洪水による第二福田小学校(2018年7月7日~)など、毎週、東遊園地(神戸市役所隣)で炊き出しの日常からの行いがあるとはいえ、具材の積み忘れなどないか、常在戦場の緊張が抜けることはありません。第2次(1月14-17日)の輪島での炊き出しでも、半世紀以上、野外で飯盒炊さん、砂漠、真水のない地帯での実体験がなんとかあるという安易な思い上がりがありました。雪の降る中、プロパンガスの火力が万全でなかったこと、着火に手間取った油断など、第3次は反省に基づいて細心の注意を払っての準備でした。被災地の炊き出しにはじめて参加された国際ギデオン協会の北村恭男さんは部分的な作業ではなく、自分たちのゴミ処理まで完結させてしまうボランティアの体験は貴重であったと朝祷会で報告しておられました。「部分」ではなく、「総合的」に仕上げるのが民間のボランティアの強みです。縦割りの工程では木を見て森を見ず式の復旧、復興、再建への取り組みのため組織で仕上げる弱点が露呈するものです。つまり日本の戦前、戦時下の陸軍のような組織的伝達では責任をとる存在が希薄になります。組織として管理する方法は平時ならばマニュアルに沿って効率よく動けます。しかし、被災地は未経験、未知、予測不可能な出来事に満ちています。個々が現場で瞬時に判断しないと対応、処理、ケアできない場面ばかりだからです。

第2次能登ボランティアでは輪島市役所依頼の計千食に相当する食料等を積み込んでいました。第3次では、実際には近隣の方たちも所望されたりなどで、計830食に及んでいました。珠洲市^{ただ}の直小学校で協働作業してくださった地元の方たちとは神戸に戻ってからも連絡し合うような関係ができました。

二日目に、輪島市の河原田小学校で炊き出し。1.1大震災からはじめて温かい肉料理を食べたと喜ばれました。炊き出し後、1月31日に18戸が出来たばかりのマリントウンの輪島キリコ会館多目的広場仮設住宅を戸別訪問しました。仮設住宅訪問の一軒目に1月6日に新藤豪牧師と訪問した朝市通りの曹洞宗の蓮江寺のご家族ともお会いしました⁴。次に、北國新聞輪島販売所勤務の独居の大下澄子さん(76歳)が朝市通りの火災ですべてを失われたと話されました。仮設住宅にはキッチン、風呂、トイレだけでなく、TV、冷蔵庫や洗濯機の家電があり、上水の受水槽と下水の浄化槽も設置されています。「温かくて、水が自由に使えてうれしい」と大下さんは言われました。およそ1ヵ月半の間、断水のため、トイレ、洗濯、炊事ができませんでした。二次避難で金沢などへ転出した人は少なくありません。集落からの人口流出を食い止めるためにも仮設住宅が急がれています。1月30日時点で入居申し込みは4140件にのぼっていました⁵。年代、家族構成、要配慮者から順次入居し、抽選ではありません。2月2日、珠洲市みさき小グラウンドには50戸の仮設入居が始まりました。内訳は、1Kと1DK21戸、2Kと2DK21戸、3K8戸です。上から降って来るのを待つ姿勢はやめるべきです。高齢者優先も大切ですが、地域で働く担い手の住まいを確保しないと都会へ流出し、ますます限界集落になってしまいます。阪神・淡路大震災の時、ケミカルシューズの中堅従事者が他府県に流れてしまった教訓を忘れてはいけません⁶。したがって、住まいも「お上(かみ)」からの認可を待つのではなく、積極的に仮設建造を訴えなければなりません。

⁴ 拙稿「第1次能登半島地震ボランティア報告」(2024年1月6日)。『中外日報』(2024年1月10日付)。

⁵ 『朝日新聞』(2024年1月31日付)。

⁶ 拙論「こころの復興がなおざりされた阪神・淡路大震災」(神戸国際キリスト教会 クリスマントゥデイ 2018年1月17日)。

<https://www.christiantoday.co.jp/articles/25079/20180117/great-hanshin-awaji-earthquake-23-years-pastor-iwamura-yoshio.htm>

b. 傾聴ボランティア

被災地ボランティアですべきことは被災家屋からの家財道具や農機具の搬出、瓦の片付け、土嚢設置などの活動を第一に思い浮かべる方が多いです。2011年、東日本大震災時に石巻市市役所建設部(大澤善雄課長当時)から重機が1台しかないとの情報を知らされ、神戸から重機を搬入。西海馨氏の協力もあり、石巻市に提供しました。マンパワーの限界で辛酸をなめていた神戸からの若者たち手作業の限界を解決する目的でした。しかし、実際には、道路損壊や、重機の管理が徹底できなかったり、結局人手によるボランティアしかないとの感触をえていました。

2004年10月23日発生の新潟県中越地震頃から、ボランティア活動に対する「官」は自発的に参加する成員の受け入れを管理するようになり始めました。やがて国などと連携する「全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)」⁷がコーディネイト役で請負うようになりました。つまり、「官」は現場がわからないので、現場をやりこなすボランティアのまとめ役を下部組織にしたのです。ボランティア募集で参加された方たちの多くはいつしか現地で登録され、行政の管理の下でしか動けない仕組みができあがりました⁸。行政はインフラ整備と並行して、受け入れ体制整備を机の上で試みます。損害程度に相違があっても一律に対応する無機質な役所仕事に変わりました。大型バスでかけつけ、ゼッケンをつけて、被災地の社会福祉協議会、ボランティア・センター(VC)、災害特別〇〇委員会などの指示通りに動くように制度化されます。金沢市から4時間近くかけて現地入りした指定された場所に午前9時半頃から約2時間、昼食後、3時半ごろまで計数時間の作業に汗を流します。4時間もすれば終わります。宿舎もありません。日帰りです。しかし、ボランティアは「労働力」ではないのです。現場に投与された労働力を時間に換算して判断する古い労働価値説で対応する姿勢にボタンのかけ違いがあります。思想家のハンナ・アーレント[1906-1975]は、人間の営みを労働・仕事・活動の三つに分けています⁸。アーレントの分類と同じようですが、被災地での営みを筆者なりに表現します。「労働」は賃金を得るため、「仕事」は物事を企画し、達成するための喜びがあります。「活動＝働き」は無報酬、自発的、他者との関係性のボランティアと分類します。アーレントは「活動」の衰退は「公共性」の衰退に繋がると危惧しました。やがて全体主義の出現と結びつくと考えたわけですが、今、能登は人間の営みの条件が顧みられていません。日本は明治維新以降、欧米に追いつくために中央集権型の仕組みに狂奔しました。戦後、憲法で基本的人権、地方自治、平等を擁護するようにしましたが、経済復興⁹は中央主導でした。ですから地方は過疎化し、若者は一極集中のように都会に住みつきます。すると多様な人間に目が行き届かなくなってしまう。個々の受け入れを阻み、一括管理、許可、資格などの無機質を条件としています。1月2日の時点から国はボタンのかけ違いが始まっています。道路事情が悪いから直接現場に行かないようにかん口令を敷きました¹⁰。被災者を隔離してしまったのです。被災者をコロナウィルスのトリアージのように「お上(かみ)」の指示がなければ適切な処置や搬送ができない全体主義国家にしてしまったのです。人間関係のプロセスは失われてしまいました。

⁷ 宮前良平(福山市立大学都市経営学部講師)は述べる。“コロナ下の2020年に熊本などを襲った豪雨災害では、当時のツイッターでの発信を分析すると、「感染対策が万全のプロ以外は行くべきではない」「自己満足だ」といった発信がありました。ボランティアは「規範逸脱者」というネガティブな印象が生まれていました”(『朝日新聞』(2020年6月14日付)。

⁸ 『人間の条件』(ハンナ・アーレント 志水速雄訳 筑摩書房 2014年19-21頁)。

⁹ 阪神・淡路大震災で唱えられた「創造的復興」を災害地の首長たちの路線を軌道に乗せたのは五百旗頭 真(いおきべまこと 1943-)。国際政治学者であるが、復興会議、日米交渉(トモダチ作戦など)、自衛隊の被災地派遣など推進した豪腕の指導者。中央集権的発想はローマ・カトリック教会信者ゆえなのか研究されたし。民間のボランティア減退の元凶と言えるだろうか。「心の復興」がなおざりにされるボランティアに舵を切るようになった。

¹⁰ 林芳正官房長官は5日の記者会見で、能登半島地震の被災地への車両乗り入れは行わないよう、改めて呼び掛けた。……林氏は「現在、被災地への限られたルートに車両が殺到し、深刻な渋滞が発生している」と指摘。県が「救命活動などの妨げとなる場合がある」として物資の直接搬入を止めるよう呼び掛けていることや、ボランティア募集も一部の県内居住者に限定していることを説明し、協力を求めた。(『産経新聞』(2024年1月5日付)。

c. マニュアルでは被災地は救われない

第3次も屈強なメンバーたちが参加されました。学者の M. シャクルトンさん、北村敏泰ジャーナリスト、北村恭男理事、漁師の長野晶朗さん(50 歳)、村上裕隆代表、佐々木美和事務局長、野田健二兄、岩村義雄の 8 人です。計 820 食の炊き出しの依頼に仕えました。

輪島市立河原田小学校で炊き出しを行いました。道中、火災で被害にあった河井町朝市通りを見た兵庫県淡路島の長野さんは阪神・淡路大震災を体験しておられました。神戸と同様、地震による火災の出火点は 1ヶ所ではありません。出火が同時多発でした。消防が対応できなくなります。第1次能登地震報告でも言及していますように、隆起により河川からの放水が制限されたこと、消防団員の減少、地震によるスプリンクラーの機能不全も重なり、朝市通りの惨事を招きました。

非常時にはライフライン以外に携帯やカーナビも電波がありません。脆弱な文明を信頼しすぎるのは危険です。神戸国際支縁機構は宮城県石巻市で、神戸からのはじめてのボランティア参加者に東日本大震災の三大悲劇¹¹のひとつに門脇・南浜地区の地震、津波、火災(56,100 m²が3日間延焼 消防庁)の三重苦を説明してきました。東日本大震災でもチリ地震¹²(1960年 マグニチュード 9.5)の時、他の地域より被害が少なかった石巻市の体験者は油断したとしかいいようがありません。人間の心性は、喉元過ぎれば熱さを忘れやすいのです。石巻市立門脇小学校¹³も6メートルの津波だけでなく、火災による火の手が在校生 224 人に迫っていました。二階から裏の日和山に板を渡して、逃げたおかげで在校生は助かりました。一方、同じ震災遺構として保存されることになったもうひとつの悲劇の大川小学校を比較します。光と闇のように明暗が分かれました。その構図は能登半島地震のボランティアの少なさの問題を浮き彫りにします。門脇小学校は避難する際、校舎の2階の窓から木製の教壇を裏の日和山の斜面に架け渡し、猿のように逃げたのです。一方、大川小学校の教師達はハザードマップに従って、児童生徒たちを校庭に集めていました。なぜならハザードマップには「大川小に津波被害は発生しない」とあったからです。校庭を一時避難所とし、その次の避難所を「近くの公園や空き地」と判断していました。津波の犠牲になった児童生徒たちをもつ被害者の側は訴訟をおこしました。裁判の結果、石巻市側は謝罪します¹⁴。争点はハザードマップというマニュアルに従った学校に対して、鉄槌が加えられました。問題は上からのマニュアル通りでは、震災などの非常時にはかえって妨げになる教訓です。

マニュアルは人を支配し、効率よく仕事をさせるには有効です。しかし、非常事態で、孤立、水、食料も尽きています。心も限界です。余震で揺れるたびにトラウマで精神失調に陥るのです。一般的なパターンでは生きるか死ぬかの瀬戸際の解決はできません。

(2) 津波に負けない

a. 津波にさらわれた限界集落の家々のがれき

2月7日、津波被害の著しい能登半島北端の珠洲市宝立町春日野と三崎町寺家を訪問しました。

¹¹ 福島第一原発事故、石巻市立大川小学校の全校児童 108 人の内の 73 人と 10 人の教職員が犠牲となった津波被害、三つ目に門脇・南浜の地震、津波、火災の被害。

¹² チリ地震の津波は、約 18m の津波がチリ沿岸部を襲った。地震と津波によるチリ全土の死者は、あわせて 1,655 人にのぼった。平均時速 750km で伝播した津波は、約 15 時間後にはハワイ諸島では 61 人、日本へは約 22 時間半後に到達。138 人の犠牲をもたらした。最大値 6.1m の津波が三陸海岸を襲った。

¹³ 現在震災遺構として、亀山紘前市長は見ると辛い思いをするという反対意見もある中、校舎の半分を残して遺構とした。震災時、下校していた児童 7 人が津波で犠牲になっている。亀山市長は 2012 年 4 月 23 日、筆者が実行委員長の神戸文化ホール大ホールで「みんなで考える命の尊さ」講演のために来神した。『朝日新聞』(2012 年 4 月 19 日付)。

¹⁴ 教師は、児童生徒の安全を確保するために、当該学校の設置者から提供される情報等についても、独自の立場からこれを批判的に検討することが要請される場合もあるのであって、本件ハザードマップについては、これが児童生徒の安全に直接かかわるものであるから、独自の立場からその信頼性等について検討することが要請されていたというべきである。『高岡法科大学紀要』(第 31 号 2020 年 3 月 ハザードマップを巡る法的諸問題 松田真治)。

春日野で石村さん(62歳)とご自宅の前で出会います。ジャーナリストの北村敏泰さんも同席され、克明にメモを取られていました。石村さんの家は地震、津波により地盤が20センチ隆起していました。約4.5メートルの通りを挟んだ家は無残な変わりようです。石村さんは「津波です」というけたたましい警告を聞くやいなや、地域の老若男女と共に高台にある長寿園に一齐に逃げたと言われました。石村さんの前の家は全壊ですが、前の家のご夫婦は奇跡的に脱出できたそうです。

東北の津波の時と異なるのは、津波てんでんこで我先に一齐に逃げた状況です。パニックは奥能登では耳にしませんでした。2011年3月11日、宮城県石巻市旧渡波は、第一波、第二波、第三波の間隔が複合してのように四方八方から呑み込み、逃げ場を失いました。東日本大震災の場合、50年前のチリ地震の津波被害を体験した年配者たちの慢心による犠牲も少なくありませんでした。防災意識が強かった三陸沖なのに、津波第一波の引いた後、位牌、現金や預金通帳を取りに帰った人は犠牲になりました。石巻市で適応指導教室の室長をしていた阿部捷一¹⁵[1942-2017]さんは教育者としての責務を全うしておられました。石巻市でも地震直後、一齐に携帯が使えなくなりました。携帯やパソコンは津波、地震などの非常時には使用不能です。阿部先生は教え子が気になり、自閉症の子どもたちに直接行動されました。そうした個々の人々への感性が救いにつながりました。

2月8日、珠洲市立緑が丘中学校の昼食の炊き出しを終えて、次の炊き出し場所である直小学校に行きました。移動途中に佐々木美和事務局長と珠洲市泉谷満寿裕市長を表敬訪問しました。珠洲市の適切な指示がなければ私たちは炊き出しができませんでした。全国から寄せられた救援金を手渡しました。市長ご自身の家も被災され、市民の復旧、復興、再建が厳しい中、不眠不休で働いておられる様子がうかがえました。阪神・淡路大震災の時は、電気は、7日で復旧しましたが、珠洲市北部と輪島市街地沿岸部や南部は2ヵ月ほどを要するとも耳にしました。水道復旧は前途多難です。なぜなら各家庭への給水が配水管の修復が遅れているからです。珠洲市の約9割を担う1976年に完成した宝立浄水場などが被災しています。1月14日時点で市内ほぼ全域の約4800戸が断水しており、長期化が避けられないと市長はインタビューで答えておられました¹⁶。電気のライフラインは一部1月15日に訪問したときはすでに復旧していました。

復興¹⁷は新たな縁づくりからはじまります。直小学校での炊き出し準備の時、在校生の母親森山由美さんの息子さんの昨年新築したばかりの2階建ての家が津波に襲われたとお聞きしました。森山さんの車の後ろについて、三崎町寺家集落に向かいました。寺家は名前の通り、真宗大谷派専念寺(畠山義春住職74歳)の寺が中心の内浦沿いの海岸沿いにあります。1月1日の津波で無残に変わっていました。寺だったのか一般の民家なのかどうかは判別できないほどでした。佇んでいると山下新日本汽船[株]に勤務しておられた珠洲市三崎町寺家下出地区の区長出村正廣さん(76歳)に話しかけられました。住職は無事なこと、5メートル近い津波の被害についてお話しくださいました。荷物を持たず標高23メートルの下出集会所に逃げる約180人が避難していたそうです。石巻市の大川小学校や学校周囲の犠牲者になったケースとは異なります。能登の場合、避難訓練が功を奏していたのです。寺家の住民は幾たびにも及ぶ避難訓練をマンネリ化と思わず、出村総合区長の指示通りに高台に集中したために犠牲者が出ませんでした。

奥能登では、前年2023年5月5日午後2時42分ごろ、珠洲市で震度6強の地震がありました。

¹⁵ 神戸国際支縁機構の石巻支所初代所長。現在は奥さまのとよ子さんが引き継いでおられる。

¹⁶ 『北國新聞』(2024年1月15日付)。

¹⁷ 拙論「キリスト教と復興」(関西学院大学14,15頁)。「復興の神学」“The Theology of Restoration”参照。復興はヘブライ語では תיקון (ティクン *tikun* <復元, 復活, 再統合の意>, ギリシャ語で ἀνάστασις アナスタシス *anastasis*)。これを念じる。この継起のため、世直し, 変革, 自由を目指して、今日もうめき声が聞こえる辺境地に渡河する。危機に狼狽している世界の孤児, 夫をなくした独身女性, 高齢の独居者にお出合いする。貧しい人とコミュニケーションするのに、復興の神学とも言うことにする。

珠洲市須須神社境内に3つある鳥居のうち、海沿いにありシンボルとして親しまれていた第一鳥居が見舞われ、倒壊しました。2月14日、出勤前の息子の出村正幸さん(47歳)と電話での会話から1.1大震災に倒れた須須神社の第二鳥居は津波によって運ばれた泥がかかかっており、第三鳥居には亀裂が入ったと聞かされました。被災が連動していたことも地域住民の慢心を打ち砕いており防災意識も高かったと言えます。手許にある灯籠とこま犬が倒れている須須神社の画像が痛ましいです。

正幸さんの言葉は意味深長です。海があつて、塩田、棚田、すぐに急な坂、崖。高台に民家が並んでいました。しかし、近年、海沿いに民家、以前は高台に並んでいたのに海岸際まで拡張しました。それは先人の知恵をないがしろにしています。今回の1.1大震災は私たちに高台にもどることを暗示しています。

b.塩は生活の必需品

13年前の2011年3月20日、私たちは最初に宮城県石巻市山下町の齋藤病院に医療物資を届けました。釜小学校などに石油ストーブ、燃料などを届けてから、国道398号線(269.7km)を女川方面に向かいました。石巻湾の潮の匂いがする海岸沿いです。渡波の家屋、道路、商店はがれきで覆われ、どこが道で女川おなかわに行けるか判別ができませんでした。万石橋手前の製塩の渡波専売官吏派出所¹⁸前のわずかな空き地に私たちの車3台は止めました。専売公社の建物は何年も使われず、割れた窓、蜘蛛の巣、くずれた木造の塀が今にも倒れてきそうでした。初対面にもかかわらず私たちを家族のように親しく迎え入れてくださった佐藤金一郎(1941年生まれ)さんは語られました。渡波は江戸時代には塩田だったと。だから隣の町名は「塩富町」、「万石浦」と言うことなどを聞かせてくださいました。渡波は江戸時代から塩田で開拓された区域です。江戸時代には仙台藩における塩の約37%を製塩していました。昔の渡波は漁業と塩業の両方でかなり活気があったと聞きました。塩が縁で、毎月のように神戸から渡波に行くようになりました。昔の製塩は、濃縮させた海水を釜で煮詰めて塩の結晶を得る方法でした。この製塩法は機械化により石巻市の流留渡波塩田は1959年に終焉を迎えました。日本各地の塩田がこの時期に廃止になっています。

丹野清(宮城県石巻市前市会議長 77歳)さんによると1953年頃は塩田があたり一面にあったことを話されました。丹野一雄(宮城県漁業協同組合前委員長 75歳)さんは、万石浦小学校に塩田の石碑があることを教えてくださいました。石巻市の歴史についての第一人者であられる阿部和夫¹⁹(85歳)さんは、地名が製塩と関係してきた書籍『門脇事典一写真と地図で見る歴史』(阿部和夫共石巻アーカイブ 2020年)を発刊しておられます。2011年から神戸国際支縁機構は自然と共生するように住民と交流を始めました。空港、東北自動車道、インフラストラクチャー(infrastructure 略称・インフラ)²⁰など行政がする役割とは別に、私たちは再び塩田を復活できないか思案のひとつでした。塩田の石碑の近くの万石浦幼稚園(長浜幼稚園)の北川禮子園長が神戸の若者たちを迎え入れてくださいました。「復幸米」づくり、石巻地区森林組合の依頼で炭焼き、海苔養殖などの漁ボランティアにいそむようになって、塩作り²¹は常に願いにありました。

1月6日、能登半島訪問を通じて今でも製塩がなされていることを知りました。

¹⁸ 旧大蔵省は1905(明治38)年6月、塩専売法の施行に伴い、翌年から塩の収納管理施設として全国51ヶ所に派出所を設置。万石橋近くの旧派出所跡の建物は建築年不明だが、木造平屋寄棟造り(よせむねづくり)横板張りの洋風建築。

¹⁹ 歴史家阿部和夫氏は季刊誌『支縁』(2018年2月1日～2021年1月1日)に連載してくださいました。

²⁰ 停電、都市・LPガス、水道、直営国道、在来鉄道、港湾、漁港、河川堤防などは棲み分けとして、行政は有利に展開できる。ボランティアは心の復興に取り組む命題を背負っている。

²¹ 製塩方法のひとつ、濃縮させた海水を釜で煮詰めて塩の結晶を得る方法。製塩法は機械化により1955年以降に終焉を迎える。能登を除いて日本各地の塩田がこの時期に廃止になっていた。

8世紀初めの塩田遺跡が能登で発掘されています。全国最古の出土例です。明治以降、中央集権化が進み、戦争政策の一環として塩は専売制に変わりました。敷きつめた砂に海水を撒いて天日で乾燥させる人力による揚浜式製塩は廃れていきました。珠洲市清水町の「角花家」の作業小屋「釜屋」(6代目浜士角花洋さん(50歳)を除いて、能登の揚浜式製塩は消滅しました。今残っている珠洲市北端の外浦の珠洲製塩だけです。

能登半島地震にもめげず、塩造りをなさっていると聞き、聖書に書かれている「塩の契約」を想起しました。「あなたの穀物の供え物はすべて塩で味付けしなさい。あなたの穀物の供え物には神の契約の塩を欠いてはならない。あなたの献げ物には、必ず塩を添えなさい」(レビ記 2:13)。

次回はお会いして塩作りについてお聞きしようと、直小学校に戻りました。

c.海女、「はよ潜りたい」家失っても「漁続ける」

輪島市の海女漁は、「輪島の海女漁の技術」として国重要無形民俗文化財にも指定されています。市内には海女が約130人いるとされ、そのうち120人ほどが地震の被害が大きかった市中心部付近の海士町に集中しています²²。アワビやサザエを春から夏にかけて採り、冬は岩ノリ、春はワカメ採りに、夫と漁船に乗って漁を手伝うこともあります。

約200隻が係留する輪島港は地盤が2メートル以上隆起のため漁船は出港できませんでした。海女による素もぐり漁が1.1大震災によって中断しました。

石川県能登地方と並んで、房総(安房郡白浜町)の海女、三重県志摩地方は「日本の三大海女」²³として知られています。能登半島地震で被災し、漁に出られなくなった石川県輪島市の海女を支援しようと、三重県志摩市の海女が寄付を呼びかけています²⁴。

舩倉島²⁵で生まれ育った門木さん。曾祖母、祖母、母と少なくとも4代続く海女の家系です。「小さい頃からそばに海があって、私らの世代までは、海女になるのが当たり前やった」、と²⁶。

アワビと言えば、8世紀の初頭、安房国(千葉県)はアワビを大和朝廷に貢いでいました²⁷。2019年の房総半島台風²⁸が千葉県館山市布良²⁹に襲った時、懇意になった舟吉さんと呼ばれている豊崎栄吉[1928-2020]氏がおられました。12年も地域の区長をされていました。1800年ほど前、布良崎神社に祀られている天富命により、四国の阿波の人たちが布良海岸に上陸したと言われました。神戸国際支縁機構の千葉支所長の嶋田博信さんによると、「天富命が偉大な祖父天太玉命を祀ったのが大神宮の安房神社で、房総半島の南部が安房の国となりました。千葉県の南部の人たちたちは麻の種をよくまき、よく育ったので、房総半島という名前が定着しました」、と。

米国で「アワビ」づくりの話について歴史家愛沢伸雄³⁰(72歳)さんの自宅に足を運び、聞くことができました。「米国でアワビ潜水漁業」を明治末期に始めた野田音三郎³¹[1869(明治2)-1914.4.23]か

²² 『北陸中日新聞』(2024年1月20日付)。

²³ 『千葉日報』(2024年3月6日)。

²⁴ 『NHK』(2024年2月2日午後3時14分)。

²⁵ 石川県能登半島の輪島市の北、約50kmの日本海上に位置する。古くより海女の島として名高い。周囲は5Km。約1時間で1周できる。1.1大震災の時、在住は3人のみで生存。男性は海士(あま)。片道85分 大人2300円 1日1往復。

²⁶ 『北國新聞』(2024年2月17日付)。

²⁷ 『海女』(田辺悟 法政大学出版局 1993年21頁)。

²⁸ 2019年9月9日台風15号。

²⁹ 人口311人、世帯数171。2019年9月17日、富崎地区の連合区会長である嶋田政雄さん(79歳)から屋根の修復を依頼された最初の家が豊崎栄吉(91歳)さん。奥さまの美代さん(当時89歳)から感謝され、次に、小谷登志江さんの家に向かった。拙稿「第1次千葉災害ボランティア報告」(神戸国際支縁機構 2019年)。

³⁰ 「安房文化遺産フォーラム」代表。1951年北海道十勝郡下川町生。千葉大学教育学部非常勤講師(社会科・歴史教育論担当)。戦争遺跡保存全国ネットワーク構成団体・運営委員、千葉県歴史教育者協議会法人会員・県委員等。

³¹ 佐賀県牟田辺村の石井家に生まれ、野田林右衛門の養子となっている。野田音三郎は1889(明治22)年渡米しサンフランシスコを拠点に、各種農園作業や山林開墾事業に従事した。その後、開墾事業を続けながら1898(明治31)年モンレー湾で日本人に

ら切り出されました。音三郎は劣悪な労働環境を改善するため労働団体を結成するなど、日本人労働者の地位向上と職場開拓に務めました。日本が日露戦争[1904-1905]に勝利した頃からアメリカ人による排日の動きが高まりました。音三郎は在米日本人協議会を結成しました。また代表としてワシントン駐在大使青本周蔵に面談し、排日問題の解決を働きかけるなど尽力をつくしました。1913(大正2)年、カリフォルニア州日本人中央農会こたにが設立されると会長に就任し、稲作にも取り組んでカリフォルニア米生産への道を開きました。小谷源之助・仲治郎ら房総アワビ漁師移民が開拓した米国カリフォルニア州ポイントロボスに、「安房文化遺産フォーラム」の池田恵美子代表は2023年8月30日に単身訪問。ミニ博物館には房州海士³²・小谷源之助の顕彰と様々な写真資料、そして器械式潜水具と並んで、2006年に寄贈した房州海女着の展示を視察されました。

アワビは日本古代から現代までの歴史秘話、また国際的な交流を促進してきました。

(3) 里山・田園・里海の復興

a. 棚田の亀裂

2011年に全国で初めて認定された世界農業遺産は「能登の里山里海」でした。半島自体は海に面しており、急峻きゆうしゆんな山で構成されています。た「白米千枚田」の棚田米、塩づくり、海女漁は日本の原点とも言えます。

農水省によると、1.1大震災により、地盤隆起などが農地やため池などの農業用施設計860ヶ所に被害が及んでいます³³。

2011年、石川県の「能登の里山里海」は、新潟県の「トキと共生する佐渡の里山」と共に、日本人が自然と共に生きてきた証しを味わうことができる数少ない地域のひとつです。農・林・漁との関わり、昔から農産物への営み、漁に出かける時、収穫への感謝をどのように表現したかの幾世紀にもわたる基層性を見ることができます。

災害を恵みとして築かれてきた風土もあります。地滑りを繰り返した傾斜地に人の手を加えてきました。そこにしがみついて生産の場にしてきました。不運に抗いながら、傾斜地を放棄せず、歯を食いしばり、収穫の場へと変えてきた先人達の営みが能登の北端にあります。反収を追い求める農業はトラクター、コンバイン、化学肥料、農薬が必要です。一方、機械によらず、手作業による棚田米はブランド米でもあります。コメ栽培だけではありません。シイタケ、白ネギ、大納言小豆などの能登野菜も生産してきました。

b. 海の見えない能登にするな

珠洲市、防潮堤のない貴重な海岸線。海の向こうには晴れた日に立山連峰が見えます。道路まで津波は押し寄せました。海に面した民家の住人は無事でした。なぜなら1.1大震災の第1波が襲って来た時、沖の波が見慣れないものだったからです。幾世紀にもわたって息をしてきた陸と海とが邂逅する海岸は村人たちにとり、いのちの吹きだまりでした。青い空と海底湧水により揺籃している海藻の森、穏やかに打ち寄せる波とコラボの合奏している風と海が織りなすシンフォニーが絶えず人々の呼吸と一体でした。寺家はわずか数百メートルの区間ですが、日本列島が産み出した

よる本格的なアワビ漁業を開始。サクラメントにおいて52歳で死去。出典 Crop, Chattel, Personal Property Mortgages, Colusa, 1912 ~ 1914 コルサ郡日本人稲作関係者の動産抵当資料 1915(大正4)年。愛沢伸雄蒐集資料集。

³² 海女の男性呼称。

³³ 『神戸新聞』(2024年1月19日)。

ゆるやかな曲線は山と海の間を糸で紡いだようにやさしいです。悠久のいのちと暮らしがあります。

そこに住む出村正幸さんは噛みしめながら、神戸の筆者に言いました。

「能登の昔の風景は変わらない。津波が来ても。数千年間を振り返って、人間は高い所に住んでいたの、無事だったのです。昔の人は知恵がありました。能登の以前の風景は、高台に家があった、海岸線に塩田があるのです」と。「里山・田園・里海で生きる人々は住宅を所狭しと、建ててこなかったんです」。

宮城県気仙沼地区で津波を被った住人は、漁業生産や観光(景観)をそこなうので、巨大防潮堤に強い反対の声をあげました。『NHK』は、2014年5月30日に「防潮堤400キロ 命と暮らしを守れるか」のスペシャル番組を放映しました³⁴。住民の防潮堤反対の声があがりました。民は「津波がくれば高台に避難すればよい」と宮城県村井嘉浩知事³⁵に申し入れました。ところが知事はことごとくつっぱね、押し切りました。建設に絡む巨大利権独占資本の意図は隠蔽したままでした。今や海は見え、波の音も聞こえず、無機質な海岸線になっています。住民は故郷を捨て去りました。

村井知事はじめ公共事業で利権を得る国は東北地方に400キロにわたる防潮堤を造りました。季刊誌『支縁』No.10(2015年2月)で、筆者は次のように訴えました。

コンクリートの防波堤・防潮堤・テトラポットに頼らない「湾」 季刊誌『支縁』No.10 から抜粋

大船渡は太平洋に臨む約4万人の港湾都市。津波被害で死者340人、行方不明80人に及んだのは巨大防潮堤がこわされたからです。震災から2年も経ているのに、海岸保全施設(護岸や堤防、防潮水門、防潮樋門)が流れ、無残にも崩れていました。

人々が住むのは川が海に注ぎ込む扇状地です。東日本大震災の津波は河川の堤防も乗り越えて、おびただしいビル、家をころがしました³⁶。昔から津波はたくさんの人のいのちを奪ってきました。1933年、昭和三陸津波では岩手県宮古市田老地区では559戸の内500戸が流されました。人間はなんとか被害をなくそうと闘ってきました。防潮堤、防波堤は最後の砦のようです。1966年、世界最大の防潮堤が田老町に建てられました。車から見上げるほどの高さ10^{メートル}、長さ2600^{メートル}の分厚いコンクリートでできています。現代の「万里の長城」と言われ、海外からも人々は見にやってきました。住民は安心し、どんどん家を建て続けました。「防災の町」として国の内外に知られるようになります。

しかし、東日本大震災の津波は他の三陸沖の防潮堤と同じように土台からなぎ倒したのです。田老町は津波に呑まれ、死者179人、行方不明者6人でした。

立派な防潮堤がかえって仇になりました。津波がやってくるのが見えないばかりか、音も聞こえなくしました。避難経路があっても安全と思いついでいる人間は逃げようとしませんでした。2列もある防潮堤により、万全と信じていたのでしょうか。防潮堤は人に慢心をもたらしたのです。

二番目に、防潮堤は水質を悪くします。砂浜から運ばれる種々のミネラルを遮り、海の生き物の生態を変えます。リアス式三陸海岸はアマモの群生地です。クロソイ、ヒラメ、マダラ、ホッケなど50種類以上の稚魚が泥砂地のアマモ群落で育ちます³⁷。アマモは水中にたくさんの酸素を出します。

³⁴ <https://www.nhk.or.jp/special/detail/20140530.html>。

³⁵ 村井嘉浩(よしひろ) 1960年大阪府豊中市生。防衛大学校卒。陸上自衛隊東北方面航空隊。財団法人松下政経塾。1995年に宮城県議会議員。2009年知事。気仙沼の巨大な防潮堤工事や、東京電力福島第1原発事故で発生した放射性物質などの最終処分場建設問題。トップセールスとなって、東京オリンピックのポート・カヌー会場を誘致。2020年女川原発2号機再稼働了承。2023年全国知事会会長。

³⁶ 国土交通省：東日本大震災における河川・海岸施設の被害及び復旧、国土交通省東北地方整備局河川部提供資料 2011年。

³⁷ 『日本経済新聞』(2012年11月4日付)。アマモは水深1,2^{メートル}に育つ海草の一種。稚魚のゆりかごとと言われる。海の生き物の産卵、牡蠣(かき)、ワの養殖には絶好の環境である。

防潮堤について次のように報じられています。「震災前は防潮堤が遮り、大船渡湾は底層で無酸素状態でした。ところが、震災後は深さによる水温変化が小さくなった。湾口内外の水温差もなくなり、低酸素状態も改善された」³⁸、と。

三番目に、前より高くしても無駄な試みです。「過去最大級とされるのは慶長三陸地震(1611年)で、津波の高さ21メートルという記録もある。県はこうした津波の『発生頻度は低い』と判断。明治三陸(津波の高さ14.6メートル)や昭和三陸(同10.1メートル)など『数十年から百数十年に一度発生する地震』防ぐため、海側の防潮堤の高さを14.7メートルとした」³⁹、と報じられています。

現在、青森県から千葉県の間日本太平洋沿岸で巨大な防潮堤建設が行われています。その規模は、岩手、宮城、福島の間東北3県だけで総延長約370kmです。約8200億円もかかります。高さは1m前後で、高い場所では14mを超えています。東北3県の砂浜はすでに全体の7%にまで減っています。

コンクリートですから寿命があります。せいぜい60年と言われます⁴⁰。

「バベルの塔」⁴¹のように巨大な公共事業は「田・山・湾の復活」には無縁のものです。

沿岸部から人口流出することは必定です。海を見えなくする防潮堤には住民は断固反対すべきです。

c.奥能登の風光

300年ほど前、1755年11月1日、ポルトガルの首都リスボンを巨大地震が襲いました。津波による死者1万人、地震被災約5万人が犠牲になりました。大地震の衝撃を目撃した近代哲学の祖イマヌエル・カント[1724-1804]は、自然に「崇高さ」を感じると言いました。思想家である柄谷行人[1941-]は、「カントによれば、崇高は、対象にあるのではなく、感性的な有限性を乗り越える理性の無限性にある。逆に言えば、崇高は、理性の無限性を自己に対立する対象に見出す『自己疎外』なのである」と。つまり美は滑らかで磨かれているに反して、偉大な物はごつごつして野放図である、と再解釈しています⁴²。

1.1 大震災の隆起、地震、津波は自然へ向けた「崇高さ」と現代人をして考えられましようか。山の木の実、腐葉土、せせらぎなどのいのちを産む力と対照的です。地割れ、鉄砲水、崖崩れによる濁流が集落を殺しているにもかかわらずです。

昔にもどって、私たち日本人がどのように災害をとらえていたかを想起してみましよう。

「その目は赤かがちの如くして、身一つに八頭八尾あり。またその身に蘿と檜・楢と生ひ、その長は谿八谷・峽八尾に度りて、その腹を見れば悉く常に血に爛れたり」⁴³。八頭八尾⁴⁴(ヤマタノオロチ)の昔話は日本人に知られています。八つ頭と八つの尾がある上に、体表にはコケがむし、ヒノキ、杉、松、柏の樹木などが生い茂っています。その腹からはいつも血が滴り落ちています。いくつもの峰、谷、溪流をもつ山の描写です。山の恐ろしさを山の神の姿と捉えています。毎年、雨期になると

³⁸ 『岩手日報』(2011年12月22日付)。

³⁹ 『読売新聞』(2011年10月19日付)。

⁴⁰ 「過大荷重による劣化と劣化判断」(松井繁之 土木学会論文集 第374号/1-6 1986年10月)、「事業報告書」(一般財団法人 災害科学研究所 松井繁之共編)。

⁴¹ メソポタミアという言葉の意味は、「川のあいだの地域」。当時の土木技術は、石から「レンガ」、漆喰から「アスファルト」に革新しており、前時代よりはるかに高い建造物が可能となっていた。

⁴² 『定本 柄谷行人集(4) ネーションと美学』(柄谷行人 岩波書店 2004年 155頁)。

⁴³ 太安万侶が712年に編纂。『古事記(上)』(次田真幸 講談社 1994年 97-98頁)。

⁴⁴ 『神道大辞典 第3巻』(臨川書店 1978年 378頁)によると、八頭八尾を能登地方説と言及。

鉄砲水が河川を氾濫させ、人里に深刻な被害をもたらすと古代社会は山について考えていました⁴⁵。

連綿と恩恵を受けてきた自然が鬼に豹変します。戦慄すべき恐れ(ラテン語 *tremendum*)が襲うのです。「あなたの手を私の上から遠ざけてください あなたの恐怖で私をおびえさせないでください」(ヨブ 13:21)⁴⁶。ヤハヴェからもたらされる「恐怖」(ヘブライ語 **יִמָּח** エイマー *eymah* <恐れ, おぞましいの意>)を人類は凶, 罪, 過誤として否定できない自己憐憫があります。しかし, 凄惨かつ不可避なことを甘受してきた精神こそ真の「復興の神学」⁴⁷“The Theology of Restoration”なのです。ところが阪神・淡路大震災以降, 以前からあった都市計画を中央から復興予算なる予算を導入し, 近代化するという言葉遊びの「創造的復興」⁴⁸に惑わされてきました。神戸市営地下鉄, 神戸空港, 最先端テクノロジーの医療など 20 年, 30 年前から焼き直しの都市復興のスローガンで人心をたぶらかしてきた軌跡があったにもかかわらず, あたかも新日本の復興であるかのように為政者は民衆を誘導してきました。明治の有司専制⁴⁹の導線を踏み外すことなく踏襲してきたに過ぎません。

「奥能登の風光」を書き残した哲学者西谷啓治⁵⁰ [1900-1990]がいます。その教え子に神戸国際支縁機構の設立理事である水垣渉⁵¹ [1935-]さんがいます。いわば恩師の師ということになります。西谷さんは「現代の世界にみなぎっている喧騒や慌ただしさは影をひそめ, 一足とびに太古の悠久と静けさに返ったような気がした」⁵², と同書で古代の風光の跡を描出しています。

なだらかな丘陵, 穏やかな風, 小鳥の愛らしい鳴き声と対立する災害は人間を近寄らせない凄まじさの恐れをもたらす二律背反が繰り返されてきました。人間が自然の摂理を理解し, 世話をすることを忘却してはいけません。支配, 略奪, 損なったりすると歯向かう性質, 牙, 暗黒をもたらします。「光を造り, 闇を創造し 平和をもたらし, 災いを創造する者。私は主, これらのことをするものである」(イザヤ 45:7)の「創造する」(ヘブライ語 **בָּרָא** バラー *bara*)は, 「初めに神は天と地を創造された」(創世記 1:1)の「創造された」も同じヘブライ語バラーです⁵³。アンビバレントという価値両義性⁵⁴をもって存続してきた奥能登のしなやかさに注目せねば, 日本は全体主義国家に突進します。

復興は「官」から「民」が積極的に主導権を取り戻さねばなりません。今回は珠洲原発を国, 県, 市などエクスーシア(権力)のゴリ押しに屈しなかった珠洲市民の働きを報告させていただきます。

⁴⁵ 『山の靈力—日本人はそこに何をみたか』(町田宗鳳 講談社選書 2003 年 18-19 頁)。

⁴⁶ 『聖なるもの』(オットー 久松英二訳 岩波文庫 2012 年 34 頁)。

⁴⁷ 拙論「復興の神学」(関西学院大学 2022 年 14-15 頁)。

⁴⁸ 本稿の 3 ページの脚注 阪神・淡路大震災の WEB を参照。

⁴⁹ 有司(ゆうし)専制: 明治政府の政治が, 政府内の特定藩閥政治家数名で行われていると批判した言葉。学問的には 1873[明治 6] 年に大久保利通[1830-1878]による議会を通さず, 政策を立案, 実施する官僚中心の政治。

⁵⁰ 西谷啓治[けいじ] 石川県能登町生の哲学者。梶野は宗教哲学。京都学派。

⁵¹ 筆者に「空」を研究するように西谷著の『正法眼蔵』などをくださったことから, 京都学派の西田幾多郎, 鈴木大拙などを読破するきっかけになった。

⁵² 「奥能登の風光」を収録。『宗教と非宗教の間』(西谷啓治, 上田閑照編 岩波書店 1996 年 211 頁)。

⁵³ 創世記 1:1. 創造(ラテン語クレアチオ・エクス・ニヒロ)は, 「無」から「有」を産み出す行為。プラトン[紀元前 427-347]著の『テアイテトス』によると, 造られたものではなく, 永遠の存在していた物質でデミウルゴスが世界を創造(ラテン語クレアチオ・セクンダ)したのとは異なります。(参照: 『キリスト者の世界観』アルバート・M・ウォルターズ 宮崎弥男訳 西部中会文書委員会 1998 年 35 頁)。

⁵⁴ 拙論「宗教はコロナウイルス後の社会をどう目指すか—第 2 章—」(WCRP 平和大学講座 2022 年 19-20 頁)。

<結論>

炊事、調理、配膳などで出たゴミなどは慣例通りすべて持ち帰りました。帰途はゴミ運搬車のように10人乗りハイエースは能登のゴミでいっぱいでした。ボランティア道は地べたをはってするものです。

一歩外に出ると、筆者はもうボランティアの老獺の領域です。おまけに、被災地でも、家庭でも、職場でも何もできないでくのぼうです。京都学派の創始者西田幾多郎⁵⁵[1870-1945]は、肉親(姉・弟・娘2人・長男)の死に遭遇しました。「わが心深き底あり喜も憂の波もとどかじと思ふ」と⁵⁶。妻を失った寸心(西田幾多郎)は、「自分の過去といふものを構成してみた重要な要素が一時になくなると共に自分の未来といふものもなくなつた様に思われた 喜ぶべきものがあつても共に喜ぶべきものもない 悲しむべきものがあつても共に悲しむものもない⁵⁷」と1927年2月9日に親友の山本良吉に手紙を書いています。「もはや私というものはないのだ」と自失しています。そんな西田を育んだ石川県で高齢、独居の身寄りのない方、ご近所に知り合いもない人々が呻いています。

私たちは2月6日に珠洲市立緑が丘中学校で炊き出しをさせていただきました。近くに飯田小学校がありました。西田の親友鈴木大拙⁵⁸[1870-1966]が明治21年8月から22年1月にかけてその高等科で英語教師として赴任していた時期があります。大拙はそれから59年後、77歳の昭和23年、『妙好人』⁵⁹という本を出版します。その妙好人の最初に、珠洲市宝立町柏原の「柝平ふじ」さんを紹介しています。「農家の一婦人(53, 4歳)」と書き添えています。妙好人とは、必ずしも、高学歴、有資格、専門家ではない門徒です。浄土系信者の中で特に信仰に厚く徳行に富んで居る人を妙好人と云って居る、と大拙は説明しています。ボランティアも高学歴、有資格、専門家ではないことによって、避難された方々、被災で家屋、家族、友達を失った方々によりそうことができます。なぜなら痛み、苦しみ、怒り、くやしさを共感する立ち位置にいるからです。奥能登にまでたどり着くには、利便性、快適性、サービスを度外視したでくのぼうのボランティアが共苦し、感情移入し、共に生きていく同伴者になれるのです。

説教原稿の不明瞭な箇所についてを、神戸国際支縁機構の村上裕隆代表、佐々木美和事務局長に訂正していただきました。

⁵⁵ 拙論「宗教はコロナウイルス後の社会をどう目指すか—第2章」(WCRP 平和大学講座 2022年16頁)。 〃 (第3章24頁)。

⁵⁶ 『西田幾多郎全集 第12巻』(西田幾多郎 岩波書店 1966年188頁)。「憂」までが届かない心について、『西田幾多郎の憂鬱』(小林敏明 岩波書店 2003年109頁)には、西田自身のアイデンティティ・クライシスをさえ吐露しているのでは、と小林敏明は註解している。

⁵⁷ 『西田幾多郎全集 第18巻』(同322-323頁)。

⁵⁸ 鈴木大拙[本名貞太郎(ていたろう)] 仏教学者。「靈性」を知らしめ、海外に禅を紹介。

拙論「宗教はコロナウイルス後の社会をどう目指すか—第2章」(〃 16頁)。

⁵⁹ 拙論「宗教はコロナウイルス後の社会をどう目指すか—第2章」(〃 13頁)。